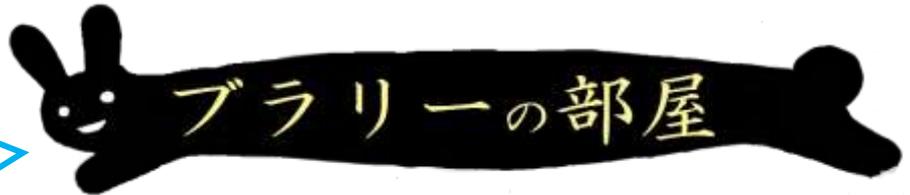


図 書 館 通 信

発行日 / 令和 7年 1月 5日

編集発行 / 旭川市中央図書館
(旭川市常磐公園 0166-22-4174)<https://www2.lib.city.asahikawa.hokkaido.jp/>

第6回 ゲスト
北川武子さん
にお話を伺いました。



開館 30 周年おめでとうございます。

この 30 年で一番、良かったと思えるのが「絵本の読み聞かせボランティア養成講座」によって絵本サークル（「赤いてぶくろ」「ぼわぼわ」「ののはな」「まほうのて」）が誕生したことです。養成講座は図書館と公民館の共催で 2004 年 11 月に開講し、昨年 8 月に 21 回目を終えました。受講者は各サークルに所属し、図書館を中心に活動していますが、要請があれば出前でも読み聞かせをしています。また、図書館まつりなどの行事でも合同で活躍しています。メンバーの入れ替わりはありますが、20 年前から変わらない人数が維持されており、創意工夫を重ねながら活動を続けております。サークル活動が図書館の発展に大きく寄与していると確信しています。

子どもたちとそのご両親にはぜひ図書館に通っていただきたいです。小さいときに図書館を経験した人は、図書館に慣れ親しみ、そして大きくなったら自分の子どもを図書館に連れてきてくださるのではないのでしょうか。そう考えると図書館の未来はもっと明るくなっていくと思います。

また、絵本サークルの学習会には職員の司書を派遣していただいている、図書館とボランティア双方の学びの場となっています。これからも図書館と力を合わせながら、活動を続けていきたいと思っています。

市民の方にはぜひ利用カードを作ってたくさん本を借りていただきたいです。これからも旭川市の図書館が市民の方々に愛されて発展していくことを願っております。

北川武子（きたがわ たけこ）

1972 年、母親として子どもの本と子どもの読書の必要性を強く感じ、地域の母親たちに呼びかけて神楽親子読書会を設立。

以来、読み聞かせ活動の草分け的存在として活躍するとともに、子どもの読書環境を良くするため市民活動を続けている。

旭川市図書館子ども読書活動推進ボランティアネットワーク顧問、図書館づくりをすすめる会代表。2009 年旭川市文化賞受賞。



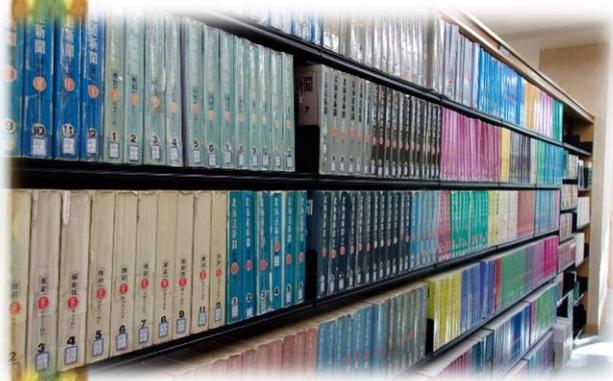
ブラリーがいく!



分室、地区館と紹介してきました、「ブラリーがいく」今回は中央図書館2階にある資料調査室を紹介します!

資料調査室って?

中央図書館2階にあります。北海道や旭川に関する郷土資料と、辞典や年鑑などの参考資料、新聞や地図などがあり、詳しく調べものが出来る場所です。



こんな事も出来る!

北海道新聞記事 DB(データベース)などでの新聞記事の検索もカウンターで承っています。

例えば、「どんな記事かは分かっているんだけど、時期がはっきりしない…」なんて時に便利! キーワードと、ざっくりした期間で記事を探すことが出来ますよ。見つかった記事は、1枚10円でプリントアウトも可能です。

年代の古い新聞もご覧いただけます。年代によって保存形態が異なるため(原紙・縮刷版・マイクロフィルム)詳しくはカウンターまで!

本以外の資料も!

本以外にも、チラシやパンフレット、マップといった紙の資料も、郷土資料として収集・保存しています。旭川のガイドマップ、観光パンフレット、市内のイベントのポスターなど…

この他にも、西武や丸井今井のオープン当時のチラシ、紙袋などなど、懐かしいものもたくさん!

何が出来るの?

旭川市史をはじめ、他の市町村や、北海道、旭川についての資料、辞典、年鑑、図鑑、法律に関する資料など、役立つ資料がいっぱい! ぜひご活用ください。

資料調査室内の資料は貸出が出来ませんが、必要な箇所は著作権の範囲内であればモノクロ1枚10円、カラー1枚100円でコピーが出来ます。

なお、コピーは職員が行いますので、カウンターまでお申し出ください。



担当からひとこと

お堅いイメージがあるかもしれませんが、実は、郷土にゆかりがある絵本やマンガも置いてあります。資料調査室から持ち出すことができないとはいえ、開館時間内なら、室内で何時間でも読んでいただけるのです。

お荷物は、コインロッカーへ。室内は撮影・通話禁止。マナーは大事です。

S 司書

どんめくり

やぎ たみこ/作 ブロンズ新社

表紙のどんぶりが印象的なこの絵本。一枚めくると「てんぷら どん」と「かつ どん」が登場するのですが、実はこの本は上の絵と下の絵が分かれていて、それぞれバラバラにページをめくることができる「しかけ絵本」なのです！

組み合わせによっては、「かつ アイスクリーム」や「ペンギン ざむらい」など、ヘンテコなものを作ることでもでき、「わー！おもしろーい！」と思わず色々試してしまいました。

絵と言葉の組み合わせを楽しむ『どんめくり』で、お子さんと一緒にお気に入りの組み合わせを見つけてみるのはいかがですか？第二弾の『どんだんめくり』もおすすすめです♪

図書館で聞いてみた

あんな本 こんな本 冬



I 司書

風林火山

井上 靖/著 新潮社

主人公は戦国時代の伝説的な軍師「山本勘助」。今川家で不遇だった彼が若く精悍な武田晴信（信玄）に見いだされ、歴史の表舞台へと昇っていきます。勘助による謀略で父を討たれた、諏訪の由布姫との間に芽生えた絆。由布姫と晴信の子、後に武田を背負う四郎勝頼を何としても守ろうとする勘助。幾たびかの合戦の後、最期は宿命のライバルである上杉謙信との川中島の決戦に向かっていきます。打倒謙信のための渾身の作戦「啄木鳥戦法」を晴信に授け、必勝を期する勘助ですが……。

読み続けていると、自分がふと勘助たちと一緒に甲府の山野を駆け巡っているような気持ちになりました。

日本史や戦国時代に興味のある方にぜひ読んでもらいたい1冊です。

F 司書

どこいったん

ジョン・クラッセン/作 長谷川 義史/訳
クレヨンハウス

人気絵本作家・長谷川義史が大阪弁で翻訳した作品です。

「ぼくのぼうし、どこいったん？」大事な帽子を無くしてしまったくまが動物たちに行方を聞いて回ります。すると1匹だけ様子のおかしい動物が……。

外国の絵本は文章が日本のものより多く、話も濃い物が多いイメージだったのですが、この作品は短い文章で話がどんどん進んでいき、かつブラックユーモアが溢れていて大人が読んでも楽しめる絵本となっています。また、会話が大阪弁で繰り広げられるのも物語と絶妙にマッチしていて読み聞かせにもおすすめですの本となっています。

気になる本があればお気軽に
図書館員にお尋ねください！



My Blue Heaven 第6回

なんでもない普通の日に、神社を参拝することがあります。境内の厳かな空気にふれると、信仰心に少しうとい自分でも、なんとなくではありますが気持ちがりセットされて「よし、また頑張っていこう」と次の一歩への気分転換になります。

先日、平日の何も予定が無かった休日に、いつもの様に急な思い付きで神社に向かいました。境内は自分の他にはお母さんと女の子の2人連れの他には誰もいない静かな雰囲気でした。女の子の手元で揺れる千歳飴を見て「あー、七五三参りなんだ。」と思いながら、おさい銭を用意していると隣から親子の会話が聞こえてきました。

「〇〇ちゃん、神様にお願い事を言いなさい。」「うーん、おとうさんが、おかあさんのこと、いじめないように！」・・・七五三のお祝いの場に似合わない言葉に頭の中が一瞬真っ白になりました。お母さんは少し言葉を詰まらせて「お母さんのことはどうでもいいから〇〇ちゃんのお願いをちゃんと言いなさい。」「うーん、それじゃデザイナーさんになれますように！」「あ、それいいね。ちゃんと手をパンパンして神様にお願いするのよ。」

自分は財布に指をいれたまま泣きそうになるのを必死で我慢しました。大丈夫、大丈夫。神様はきっと、どちらの願いも聞いてくれるはずです。ふと我に返って改めておさい銭を投げ入れて、二礼、二拍手、パン！パン！「今、隣にいた子が素敵なデザイナーさんになれますように。」

旭川市図書館の情報は……

旭川市図書館 HP



Facebook



Youtube や電子書籍のサービスも

電子図書館



YouTube

